

第8回災害対策本部会議議事録

日時：平成23年3月16日（水）10：02～10：39

- 生活衛生課長：水道の復旧は進んでいる。
- 企画部長：県内8ヶ所のGSを緊急車両専用としていたが、2店舗は在庫がなくなった。
- 農林水産部長：風評被害の恐れがある。安全性を明確にするため、サンプル調査を行う。
- 土木部長：避難者受入れ状況は、洞峰公園：22名、霞ヶ浦総合公園体育館：9名。
いわき方面からの避難者が高速道路を使用して茨城に来ている。サーベイ検査を行うなら、関本PAや中郷SAでも行う必要がある。
- 生活環境部長：国際交流センターに外国人が1,000人集まっていてパニックになっている。中国が、日本にいる中国人の帰国手続きを進めていることが一因となっている。
- 企画部長：アジアナ航空は3月26日まで、春秋航空は3月30日までの欠航を決めた。スカイマークは、本日の定期便は欠航だが、臨時便が運航予定。
- 病院事業管理者：中央病院の耐震調査を行ったが、使用可能であるとのことであったので、順次機能回復していきたい。
- 知事：いわき市からの避難が始まっている。6号や349号でチェックを行っても、高速道路を使って入ってきた車には対応できない。
日立、水戸、土浦の保健所に人員を集約して対応する。
一番肝心なことは、安全であることを周知徹底すること。いわき北部のごく一部しか屋内避難の対象地域でないのに、いわき市の全地域が避難しなくてはならないような報道がされている。茨城でも避難しなくてはならないような噂が飛び交っている。放射線量の数値（5,000ナノシーベルト＝0.005ミリシーベルト）は、レントゲンの1/10程度でしかない。自然界からの放射線量と比べても、日本の1人あたりの自然界からの年間放射線量の1/300でしかない。一般の人にも見られるように、ライフラインの改善状況等と併せて、一覧できるように要領よくまとめて市町村に配布するように。市町村にも理解してもらわなくてはならない。「400ミリシーベルト」が誤解を招いている。
- 上月副知事：ガソリンについて、緊急車両専用としているGSも枯渇しかけている。元売りから回してもらうように働きかけているが、避難住民に供給が集中している。
- 知事：菅総理、枝野官房長官と話をしている。福島県から15,000人を受け入れると言っているのに、国は何もしてくれない。
中国人に対しては、安全であることを分かりやすく説明するしかない。
農作物の風評被害について、安全宣言を行うのは慎重に行ったほうがいい。不安をあおり、逆効果になる可能性もある。福島もまだしていない。
県職員のみなさんも疲れがたまってきている。11階の休憩室を利用して、仮眠をと

って欲しい。

- J R安全企画室：常磐線は土浦以南は18日頃から復旧見込み。土浦以北は、車庫のある勝田までを優先して復旧する。
復旧のための作業車両の燃料が不足しているため、作業が滞っている。長野でも地震があったため、被害がない地域からの調達も難しくなっている。
水戸線と水郡線については、(被害の)実情を把握していない。
 - 知事：宇都宮線と高崎線は全線復旧しているのだから、水戸線と水郡線も対応して欲しい。
 - J R安全企画室：被害が小さいところから順次復旧しているので・・・
 - 教育長：高校の2次試験は23日を予定しているが、電車が復旧しないと実施自体を考えなくてはいけない。代替バスを運行してもらえないようにできないか。
 - 企画部長：バスは、ガソリン不足が深刻。3日分のストックがあると聞いている。走行可能区間は間引き運転を行ったり、休日ダイヤで運行したりしている。
 - 知事：バスを臨時で出せるかどうか確認してみたらいい。多分無理だと思うが。
 - 県警：平潟で1名行方不明者が出ている。
今後、(東北地方から)遺体が漂着してくる可能性がある。身元不明になってしまう可能性が高く、どこの県に引き渡すのか判断できない。
 - 自衛隊：避難住民も減少してきているが、引き続き給水・給食を行っている。ガソリンの供給については調整したい。また、30,000食のパンが百里基地に到着するので、配布の準備を行うこととしている。
- ※ 自衛隊が発言中、福島県知事から橋本知事あて電話あり。
- 知事：「15,000人の受入れ」が福島によく伝わっていない。
 - 山口副知事：屋内避難地域について、いわき市の旧町村名単位で示してもらいたい。
 - 知事：JCOのときは町名単位で示していた。経験が生かされていない。